

卓話 「知って得する がんの話」

有馬・藤島内科クリニック院長 藤島 弘光様

がん（悪性腫瘍）は、日本人の死因の第1位で、人口の高齢化に伴い、日本人のがんによる死亡率は増加の傾向にあり、3人に1人が、がんで亡くなる時代になってきている。がんは、体質（遺伝子変異など）も原因であるが、食生活や嗜好品もがんの発症を起こしやすいことが知られており、タバコを吸う人や緑黄色野菜の摂取の少ない人では、がんになりやすい傾向がある。人の細胞ががん化するという事は、制御できない無秩序な増殖をすることであり、1cm程度の早期のがんでもすでに約10億個のがん細胞が存在しており、一般的には早期がんから進行がん数ヶ月から1、2年以内に進行していく。痛みなどの症状が出たときは、すでに進行がんになっていることが多いので、がんの早期発見には、検診や検査が有用である。

がんの治療法は、手術療法、放射線療法、薬物療法の三つが中心であり、これらを組み合わせた集学的治療により、がんの約50%は治る時代になってきている。薬物療法には、抗がん剤治療、ホルモン治療、分子標的治療などがある。抗がん剤は細胞分裂の早い細胞に効果を発揮するため、分裂の早い正常細胞（毛髪、骨髄など）は抗がん剤のダメージを受けやすく、抗がん剤は特異性が高いわけではない。分子標的治療薬は、がん細胞が持つ性質を標的としてがん細胞の増殖のシグナルを伝達を阻止するため、やや特異性が高くなる。たとえば、慢性骨髄性白血病は、BCR-ABLの病的な遺伝子産物が作られ、一つの異常でがん化が進むため、この一つの遺伝子の活性化を抑える薬剤を内服することで、骨髄移植しなくても長期生存が可能となった。しかしながら、多くの癌腫は、いくつもの遺伝子異常が積み重なって癌化へと進むことが多く、抑えなければならない標的が複数あるため、創薬は簡単ではない。実際の治療で用いられている理想的な分子標的治療薬はまだ少なく、今後さらなる開発が期待されている。

夜間例会 ～日本料理 愛～ 参加会員 16名、ゲスト・事務局 合計 18名



●出席委員会報告 **出席率向上にご協力を！**

出席報告	第2752例会	第2750回(4/8)訂正
会員数	36 (32)人	36 (32)人
出席数	16 (15)	23 (22)
出席率	48. 48%	69. 70%

●今後の予定

5/13 (水)	外部卓話鹿児島大学医学部有馬直道様
5/20 (水)	第7回クラブ協議会 (新年度委員会別協議)
5/27 (水)	第8回クラブ協議会 (地区研修協議会報告)

市内ロータリークラブのプログラム

★印は例会場ないし例会時間変更

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	5/14(木)	★職場訪問 (国分自衛隊)	サンデイズイン鹿児島	東南	5/19(火)	★二火会	サンロイヤル
北		会員卓話 赤尾君、藤崎君	レゾナント鹿児島	城西			東急REIホテル
サザン		★新入会員歓迎会 18:30	東急REIホテル	西	5/20(水)	会員卓話	ドルフィンホール
鹿児島	外国人による日本語スピーチコンテスト発表者卓話	ドルフィンホール	西南	クラブ協議会		ゆうづき	
中央	5/18(月)	★職場訪問 (南日本放送)	ドルフィンホール				